

情報を公開するホームページのアドレスおよび内容

情報を公開するホームページのアドレス		http://nw-joho.co.jp
研 修 機 関 情 報	法人情報	<p>●法人格・法人名称・住所等 ニューワーク情報サービス有限会社 福島県須賀川市栄町 370 番地</p>
		<p>●代表者名 代表取締役 菅原 治</p>
	研修機関情報	<p>●事業所名称・住所等 ニューワーク情報サービス有限会社 福島県須賀川市栄町 370 番地</p>
		<p>●理念 (1)ご本人様と家族が安心できるサービスの提供に努めます。 (2)常に生活に着目し、老いても生きているという実感を持てるような援助を行います。 (3)経験から学んだ事を最大限に活かし専門職の意識を持ち自己研鑽に努めサービス提供を行います。</p>
<p>●学則</p> <p>こちらへ⇒ 学則へジャンプ</p>		
	<p>●研修施設、設備 研修施設： 自社内研修室で行います。</p> <p>・介護用ベッド、車イス、歩行器、杖、ポータブルトイレ、スロープ等の福祉用具 ・ 血圧計、体温計 ・DVD、プロジェクター等の教育教材 など</p>	

様式第9号(第3条関係)

< 研修事業情報 >

～ 研修の概要 ～

● 対象

公共職業安定所長が訓練の受講を必要と認めた求職者(職業訓練内での研修の為)

● 研修のスケジュール

◆12月開講

令和3年12月17日(金)～令和4年3月16日(水)

※ 詳細については、学則およびハローワークのリーフレットをご覧ください。

● 募集定員

15名

● 指導者数

講師 …… 17名

事務担当 …… 2名

● 申込方法

(1)申込手続き 受講者の管轄する公共職業安定所で受講申込をする。

(2)申込期限 令和2年5月6日

(募集定員に達した場合は、期限前でも締め切ります。)

● 費用

受講料 0円

テキスト代 6,600円

健康診断料 7,010円

● 留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等

現在、離職者等再就職訓練での研修を行っております。

募集および申込み等につきましては管轄の

公共職業安定所にてお願い致します。

～ 課程責任者 ～

● 課程編成責任者名

ニューワーク情報サービス株式会社 介護職員養成研修担当 鈴木 恵子

● 苦情対応窓口

法人窓口

担当 ニューワーク情報サービス株式会社 研修事業 増子 幸男

電話 0248-72-1616

養成事業窓口

担当 ニューワーク情報サービス株式会社 介護職員養成研修担当 鈴木 恵子

電話 0248-72-1616

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス株式会社

科目名	2、介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1、人権と尊厳を支える介護	3	3		<講義内容> 人権と尊厳の保持 ○個人としての尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 (2) ICF ○介護分野における ICF (3) QOL ○QOL の考え方、○生活の質 (4) ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方
	3	3		<講義内容> (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
2、自立に向けた介護	3	3		<講義内容> (1) 自立支援 ○自立・自立支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 (2) 介護予防 ○介護予防の考え方
(合計時間数)	9	9		

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス有限公司

科目名	3、介護の基本（6時間）			
指導目標	<p>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</p> <p>・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。</p>			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1、介護職の役割、専門性と多職種との連携	3	3		<p><講義内容></p> <p>（1）介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性</p> <p>（2）介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム</p> <p>（3）介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ○チームケアにおける役割分担</p>
2、介護職の職業倫理				<p><講義内容></p> <p>職業倫理 ○専門職の倫理と意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重</p>
3、介護における安全の確保とリスクマネジメント	3	3		<p><講義内容></p> <p>（1）介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード</p> <p>（2）事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有</p> <p>（3）感染対策 ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、○「感染」に対する正しい知識</p>
4、介護職の安全				<p><講義内容></p> <p>介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策</p>
（合計時間数）	6	6		

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス株式会社

科目名	5、介護におけるコミュニケーション技術（6時間）			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められている事を認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1、介護におけるコミュニケーション	3	3		<p><講義内容></p> <p>（1）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答</p> <p>（2）コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>（3）利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>（4）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術</p>
2、介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<p><講義内容></p> <p>（1）記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、○ヒヤリハット報告書、○5W1H</p> <p>（2）報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点</p> <p>（3）コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、○ケアカンファレンスの重要性</p>
（合計時間数）	6	6		

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス株式会社

科目名	6、老化の理解（6時間）			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1、老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3		<p><講義内容></p> <p>（1）老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験</p> <p>（2）老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響</p>
2、高齢者と健康	3	3		<p><講義内容></p> <p>（1）高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛</p> <p>（2）高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <p>○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、○循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい</p>
（合計時間数）	6	6		

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス株式会社

科目名	7、認知症の理解（6時間）			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1、認知症を取り巻く状況	1	1		<講義内容> 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する）
2、医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		<講義内容> ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理（脱水、便秘、低栄養、低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬
3、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	3	3		<講義内容> （1）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（BPSD）、○不適切なケア、○生活環境で改善 （2）認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の正解に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通じたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア
4、家族への支援				<講義内容> ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減（レスパイトケア）
（合計時間数）	6	6		

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス有限公司

科目名	8、障害の理解（4時間）			
指導目標	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1、障害の基礎的理解	2	2		<講義内容> (1) 障害の概念とICF ○ICFの分類と医学的分類、○ICFの考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念
2、障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識				<講義内容> (1) 身体障害 ○視覚障害、○聴覚、平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害、○肢体不自由、○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○統合失調症・気分（感情）障害・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障害、○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害
3、家族の心理、かかわり支援の理解	2	2		<講義内容> 家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援、○介護負担の軽減
（合計時間数）	4	4		

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス株式会社

科目名	9、こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）			
指導目標	<p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
1. 介護の基本的な考え方	4	4		<p><講義内容> 理論と法的根拠に基づく介護 1. 介護に関する専門的知識・技術の必要性 2. 介護サービスは何を目的に支援していくのか 3. 介護に関わる法律上の規定や考え方 4. 生活支援としての介護サービス 5. 医療サービスと介護サービスに求められる役割の違い 6. 利用者主体の介護 7. 生活障害という視点 8. 生活の質(QOL)を高める視点の大切さ</p>
2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		<p><講義内容> 1 学習と記憶の基礎知識 2 感情と意欲の基礎知識 3 自己概念と生きがい 4 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因</p>
3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	3		<p><講義内容> 1. 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 2 骨・関節・筋に関する基礎知識 3 中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識 4 自律神経と内部器官に関する基礎知識 5 こころとからだを一体的にとらえる</p>
4. 生活と家事	5	5		<p><講義内容> 1 家事と生活の理解 2 家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p>
5. 快適な居住環境整備と介護	5	5		<p><講義内容> 1 快適な居住環境に関する基礎知識 2 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p>
6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p><講義内容> 1 整容に関する基礎知識 3時間 <演習内容> 2 整容の支援技術 4時間</p>

様式第9号（第3条関係）

7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p><講義内容> 3時間</p> <p>1 移動・移乗に関する基礎知識</p> <p>2 移動と社会参加の留意点と支援</p> <p><演習内容> 4時間</p> <p>1 さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法</p> <p>2 介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法</p>
8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p><講義内容> 3時間</p> <p>1 食事に関する基礎知識</p> <p>2 食事と社会参加の留意点と支援</p> <p><演習内容> 4時間</p> <p>1 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ</p> <p>2 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p>
9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p><講義内容> 3時間</p> <p>1 入浴、清潔保持に関する基礎知識</p> <p>2 さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法</p> <p><演習内容> 4時間</p> <p>1 さまざまな入浴・清潔を保つための方法</p> <p>2 楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p>
10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p><講義内容> 3時間</p> <p>1 排泄に関する基礎知識</p> <p><演習内容> 4時間</p> <p>1 さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法</p> <p>2 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p>
11. 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	<p><講義内容> 3時間</p> <p>1 睡眠に関する基礎知識</p> <p><演習内容> 4時間</p> <p>2 さまざまな睡眠環境と用具の活用方法</p> <p>3 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p>
12. 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3	3	<p><講義内容> 3時間</p> <p>1 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ</p> <p>2 「死」に向き合うこころの理解</p> <p>3 苦痛の少ない死への支援</p>
13. 介護過程の基礎的理解	5	5	<p><講義内容></p> <p>1. 介護過程に基づく介護展開</p> <p>2. 介護過程の基本的理解</p> <p>3. 介護過程の必要性</p> <p>4. 介護過程の流れ</p>
14. 総合生活支援技術演習	5	5	<p><演習内容></p> <p>事例検討演習</p> <p>1 【事例1】Yさん、80歳、女性、要介護4</p> <p>2 【事例2】Oさん、88歳、女性、要介護2</p> <p>3 【事例3】Aさん、81歳、女性、要介護1</p> <p>4 【事例4】Kさん、88歳、女性、要介護5</p>
（合計時間数）	75	75	

シラバス

事業者名 ニューワーク情報サービス株式会社

科目名	10、振り返り 4時間			
指導目標	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目名	時間数	通学学習時間数	通信学習時間数	講義内容・演習の実施方法
(1) 振り返り	3	3		<講義内容> ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護の過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	1		<講義内容> ○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介
				<講義内容>
				<講義内容>
				<講義内容>
(合計時間数)	4	4		

●研修カリキュラム・担当講師

科目番号・科目名 (時間)	項目番号・項目名	講師名及び職名
1. 職務の理解 (6時間)	(1)多様なサービスの理解	増子幸男 (介護支援専門員)
	(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	増子 幸男 (介護支援専門員)
2. 介護における尊厳 の保持・自立支援 (9時間)	(1)人権と尊厳を支える介護	宍戸俊子 (社会福祉士) 柳沼 剛 (社会福祉士)
	(2)自立に向けた介護	影山利恵子 (介護福祉士)
3. 介護の基本 (6時間)	(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	安瀬礼子 (介護支援専門員)
	(2)介護職の職業倫理	
	(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	根本 恵実 (介護支援専門員)
	(4)介護職の安全	
4. 介護・福祉サービスの 理解と医療との 連携 (9時間)	(1)介護保険制度	添田 恵 (介護支援専門員)
	(2)医療との連携とリハビリテーション	平野 雄三 (理学療法士)
	(3)障害者自立支援制度およびその他制度	宍戸俊子 (社会福祉士)
5. 介護におけるコミュニケーション 技術 (6時間)	(1)介護におけるコミュニケーション	影山利恵子 (介護福祉士)
	(2)介護におけるチームのコミュニケーション	影山 利恵子 (介護福祉士)
6. 老化の理解 (6時間)	(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常	結城 光 (看護師)
	(2)高齢者と健康	結城 光 (看護師)

様式第9号（第3条関係）

7. 認知症の理解 (6時間)	(1)認知症を取り巻く状況	安瀬礼子 (介護福祉士)
	(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	熊谷ユキ絵 (医師)
	(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	安瀬礼子 (介護福祉士)
	(4)家族への支援	
8. 障害の理解 (4時間)	(1)障害の基礎的理解 (2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	熊谷ユキ絵 (医師)
	(3)家族の心理、かかわり支援の理解	富森 崇 (臨床心理士)
9. こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	Ⅰ. 基本知識の学習(10～13時間)	
	(1)介護の基本的な考え方	高久田二三子 (介護福祉士)
	(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	酒井 裕介(介護福祉士)
	(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	小林 澄栄 (介護福祉士)
	Ⅱ. 生活支援技術の講義・演習(50～55時間)	
	(4)生活と家事	高久田二三子 (介護福祉士)
	(5)快適な居住環境整備と介護	増子幸男 (福祉住環境コーディネーター)
	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	影山利恵子 (介護福祉士)
	(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	高久田二三子 (介護福祉士)
	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	若松 恵梨(介護福祉士) 佐久間 明美(介護福祉士) 渡邊 久美子(介護福祉士)

様式第9号（第3条関係）

	(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 影山利恵子 (介護福祉士)
	(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	若松 恵梨(介護福祉士) 佐久間 明美(介護福祉士) 渡邊 久美子(介護福祉士)
	(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	渡邊 久美子(介護福祉士) 佐久間 明美(介護福祉士) 若松 恵梨(介護福祉士)
	(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	結城 光(看護師)
	Ⅲ. 生活支援技術演習(10～12時間)	
	(13)介護過程の基礎的理解	高久田二三子 (介護福祉士)
	(14)総合生活支援技術演習	安瀬 礼子 (介護福祉士)
10. 振り返り(4時間)	(1)振り返り	根本 恵実 (介護支援専門員)
	(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	添田 恵 (介護支援専門員)
合計 131時間		
修了評価(1時間)	※全科目修了後に1時間の筆記試験実施	増子幸男 (介護支援専門員)

～ 修了評価 ～

●(1)

- ①当事業所が定めるカリキュラムの全課程を履修していること
- ②各科目別に定める修了時の評価ポイントに沿って各受講生の知識・技術等の習熟度を確認する。

③演習については、習得度評価シートに基づきABCで評価

A(できる) B(だいたいできる) C(できない)

49項目中34項目以上がA・B判定で合格

(2)全科目の研修修了後、1時間の筆記試験による修了評価を実施する。

(100点を満点評価とする)

A(90点以上)

B(80～89点)

C(70～79点)

D(70点未満)

様式第9号（第3条関係）

評価基準は、次のとおり、理解度の高い順にA・B・C・Dの4区分とし、C以上で評価基準を満たしたものと認定する。

但し、D判定のものについては、必要に応じて補講等を行い再評価するなど、基準に到達するよう努める。

●講師情報（名前、資格、略歴）

講師氏名	資格	職歴・現職
増子 幸男	介護福祉士・介護支援専門員・福祉住環境コーディネーター2級	ニューワーク情報サービス(有)介護支援専門員 ヘルパーステーションハッピー福島 訪問介護員
根本 恵実	介護支援専門員	ニューワーク情報サービス(有) 介護支援専門員
影山 利恵子	介護福祉士	
柳沼 剛	社会福祉士・介護支援専門員	須賀川市社会福祉協議会 地域包括支援センター相談員
穴戸 俊子	社会福祉士・介護支援専門員	(株)みなさまの介護相談室 介護支援専門員
安瀬 礼子	介護福祉士・介護支援専門員	ニューワーク情報サービス(有) 介護支援専門員 ヘルパーステーションハッピー福島 訪問介護員
平野 雄三	理学療法士・介護支援専門員	南東北春日リハビリテーション病院 リハビリテーション業務
添田 恵	介護支援専門員	ニューワーク情報サービス(有) 介護支援専門員
熊谷 ユキ絵	医師・日本神経学会専門医	医療法人吉田医院 院長
富森 崇	臨床心理士	NPO 法人ハートフルハート未来をはぐくむ会 カウンセリング業務
結城 光	看護師	(株)豊かな手 管理者兼訪問看護業務
高久田 二三子	介護福祉士	ヘルパーステーションハッピー福島 管理者兼サービス提供責任者
小林 澄栄	介護福祉士	ヘルパーステーションハッピー福島 サービス提供責任者
若松 恵梨	介護福祉士	丸光ケアサービス 管理者兼介護員
佐久間 明美	介護福祉士	丸光ケアサービス 管理者兼介護員
渡邊 久美子	介護福祉士	丸光ケアサービス サービス提供責任者

酒井 裕介

介護福祉士

丸光ケアサービス 支店長兼介護員

～ 研修事業実績情報 ～

研 修 名 訪問介護員養成研修2級課程
研修事業開始 平成10年～ 延べ修了者人数 476人
直近の研修実施回数と研修延べ参加人数
平成29年度 実施回数 3回 修了者人数 36人
平成30年度 実施回数 3回 修了者人数 43人

研 修 名 介護職員初任者研修
研修事業開始 平成25年～ 延べ修了者人数 169人
直近の研修実施回数と研修延べ参加人数
平成28年度 実施回数 3回 修了者人数 49人
平成29年度 実施回数 3回 修了者人数 40人
平成30年度 実施回数 3回 修了者人数 42人
令和元年度 実施回数 3回 修了者人数 39人
令和2年度 実施回数 3回 修了者人数 43名予定